

第20期事業報告書

平成16年3月1日から平成17年2月28日まで

Heart Warming



株式会社メディカルー光

JASDAQ

証券コード 3353

経営戦略

メディカルー光は、「良質の医療サービスをより多くの人に提供する」という理念の下、調剤薬局の運営を主力事業として展開しております。

わが国の医薬分業率は平成15年度に50%を超え、市場規模は3兆7千億円となりました。厚生労働省では、医薬分業の地域格差是正と質の向上を総合的に推進する方針を示しており、分業率は今後70~80%まで進展し、調剤市場は6~7兆円規模に拡大すると予想されています。こうした環境の下、当社は分業率の低い地域を中心とした出店戦略で、大型病院前の好立地に、積極的かつ計画的な店舗展開を進めています。また、立地条件に加えて薬局サービスの質を重視しており、「安全性の確保」と「ホスピタリティーの精神」を基本コンセプトに、多様な価値観を持つ患者様一人ひとりから信頼され、満足いただける薬局づくりを進めています。

シナジー

調剤事業

医薬品卸事業から得られる
情報を出店開発に活用
医療全般に関わる
ノウハウを蓄積

3事業の相乗効果

医療に特化したビジネスモデルを構築

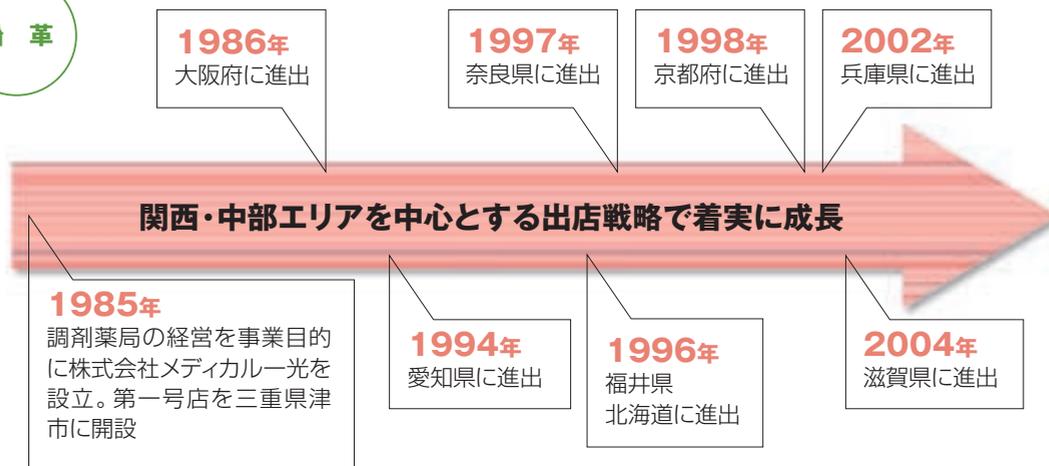
医薬品卸事業

医薬品情報・分業情報・
開業情報の収集で
アンテナ機能を果たす

不動産事業

病院施設賃貸・
メディカルモール開発など
医療に関わる事業展開

沿革



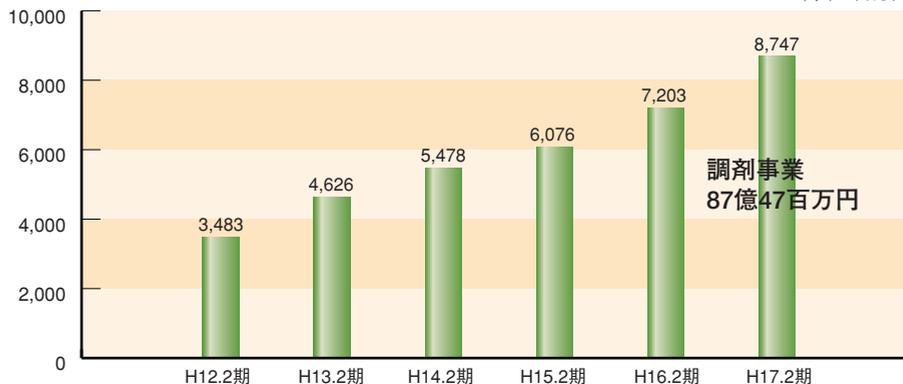
主力事業

5年間で2.5倍の売上を達成<成長を続ける調剤事業>

当社の主力事業である調剤事業において、平成17年2月期の売上高は過去最高の87億47百万円となりました。これは、5年前の平成12年2月期に比べ約2.5倍の伸びとなっています。調剤業界は今後、成長期から成熟期を迎え、M&Aの進展とともに業界の再編・淘汰が予想されています。当社はM&Aへの対応も視野に入れつつ、積極的な店舗展開で更なる成長を図っていきます。

■調剤事業売上高推移

(単位:百万円)



事業戦略

医薬分業率の低い(=成長性の高い)関西圏での積極的な出店



右表の通り、当社が出店する関西・中部圏の医薬分業率は、全ての府県で全国平均を下回っています。当社は、潜在需要が高い関西圏を重点エリアと位置づけて出店を推進するとともに、平成17年1月には西日本事業本部を設置し、店舗オペレーション体制の強化を図っています。

[医薬分業率の高い地域]

秋田県	72.3%
佐賀県	69.8%
神奈川県	69.2%
沖縄県	67.3%
宮城県	65.1%
新潟県	64.7%
東京都	64.1%
宮崎県	61.8%
北海道	60.9%

[関西・中部圏の医薬分業率]

兵庫県	50.1%
岐阜県	47.5%
滋賀県	44.5%
三重県	43.1%
愛知県	41.1%
奈良県	37.3%
大阪府	36.3%
京都府	29.6%
福井県	18.1%

全国平均 52.7%

関西・中部圏は全ての府県で全国平均を下回る

(出所)日本薬剤師会平成16年3月～平成16年7月平均

効率性を重視した出店と患者様満足度を高める薬局づくり

当社は、大型病院前の好立地を中心とした店舗開発を進める上で、採算性を考慮した出店基準を守り、不採算店舗発生の可能性を最小限にとどめております。また、これまで蓄積してきたノウハウを活かして質の高い薬局サービスを提供し、患者様と医療機関の双方から信頼される薬局づくりを進めていきます。



	H15.2期	H16.2期	H17.2期
出店数	6	6	6
退店数	1	1	0
期末店舗数	47	52	58



当社が展開する調剤薬局チェーン「フラワー薬局」のロゴマーク PHARMACY FLOWER 人の心を優しく癒してくれる“花”のような薬局をイメージしています。



代表取締役社長 南野 利久

おかげさまを持ちまして平成16年11月26日ジャスダック市場に株式を上場をいたしました。今後もより一層の業容の拡大に努め、株主価値の向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。おかげさまを持ちまして、当社は平成16年11月26日にかねてより念願であったジャスダック上場を実現することができました。上場を機に、公開企業としての社会的責任を十分に認識し、株主の皆様をはじめとするステークホルダーの方々のご期待に添えるよう、企業価値の増大に向けて努力邁進する所存でございます。

当社は「患者様第一主義」を経営理念としております。病気や怪我などで医療機関を訪れる患者様に対して、私たちはまず「ホスピタリティーの精神」でお迎えすることが何よりも大切であると考えています。また、医療過誤に対する関心が高い昨今、患者様や医療機関から信頼される薬局づくりを進めることは、競争に負けないための必要条件であります。この2つの責任を果たしていくことが、ひいては株主価値の向上につながるものと確信しております。

今後ともより一層のご指導、ご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

第20期の業績については、売上高、利益ともに前年同期比2桁台の伸びとなりました。

当期のわが国の経済は、輸出や設備投資の増加により、景気回復基調で推移しましたが、年度後半には、やや減速の動きがあり、景気の踊り場とも評されています。

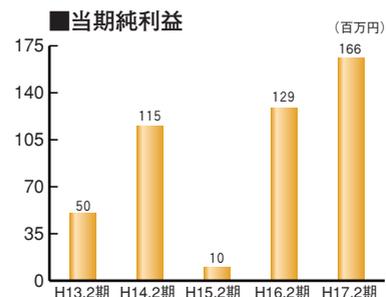
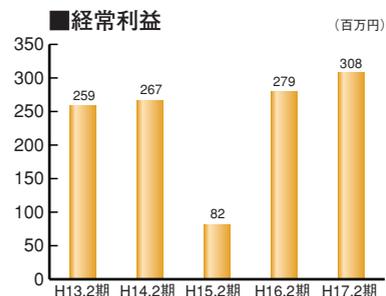
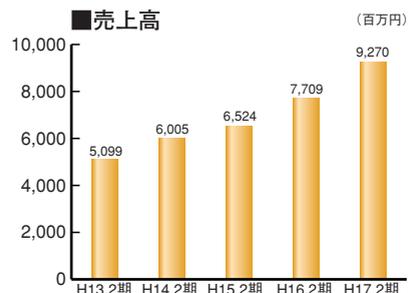
その中で、当社の主力とする調剤業界は、平成16年4月の調剤報酬改定が小幅であったこと、医薬分業が引き続き進捗したことなどから、市場規模が拡大しました。一方、競合他社の積極的な出店開発にともなう競争が激化しており、業務の省力化・ローコスト化による効率的な運営が求められています。

このような状況下、調剤事業においては、医薬分業率の低い関西地区を中心に、当期6店舗の新規開局を行い、売上・利益とも順調に推移しています。また、既存店舗においても前年を上回る売上・利益を計上しています。

医薬品卸事業においては、新規開拓の強化に努め、販路の拡大と売上の増加を実現しました。

不動産事業においては、高収益率を維持し、前年を上回る売上となりました。

以上の結果、当期の売上高は9,270,274千円（前年同期比20.2%増）、経常利益は308,641千円（同10.3%増）、当期純利益は166,264千円（同28.8%増）の増収増益となりました。



積極的な新規出店による規模の拡大、新しいビジネスモデル構築による収益力の強化に努めてまいります。

調剤市場は引き続き拡大が見込まれるものの、新規参入を含めた競争の激化やM&Aの進展で業界は淘汰・再編の時代を迎つつあります。こうした状況の下、当社は関西地区を主戦場と位置づけ、大型病院前の好立地への積極的な新規出店を進めており、平成18年1月には、大阪府内に当社最大規模となる旗艦店を出店する予定であります。

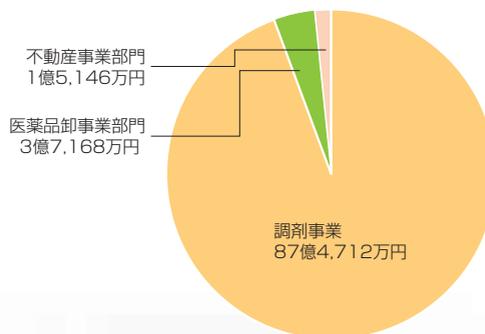
医薬品卸事業では、今後市場の拡大が見込まれるジェネリック医薬品の販売を行っており、更に販路の拡大を図っていきます。

不動産事業では、病院施設の賃貸業務を通じて得た医療機関経営のノウハウを活かしてメディカルモールの開発を進めていきます。メディカルモール事業は調剤事業および医薬品卸事業

とのシナジー効果も視野に入れています。

このように当社は、医療を中心とする独自のビジネスモデルを構築し、良質な医療サービスの提供と収益の拡大を図っていきたいと考えています。

<事業部門別売上高>



平成16年11月26日ジャスダック市場に株式を上場いたしました。

昨年11月、企業価値の向上と安定的な成長を目指して、ジャスダック市場に株式を上場いたしました。上場を機に、財務体質の強化と優秀な人材の確保を図り、更なる業容の拡大を進めてまいります。当社は今後も「患者様第一主義」を基本コンセプトとして、全てのステークホルダーを大切にすることを宣言いたします。



フラワー薬局湖東店(滋賀県東近江市)、フラワー薬局三宮店(兵庫県神戸市)を含め、6店舗を新規出店いたしました。

平成17年2月期は、6店舗を出店いたしました。滋賀県初進出となるフラワー薬局湖東店、ポートライナー三宮駅構内に位置するフラワー薬局三宮店など、関西地区を中心に出新店しております。今後も、大型病院前の店舗を中心として、計画的な店舗展開を進めてまいります。



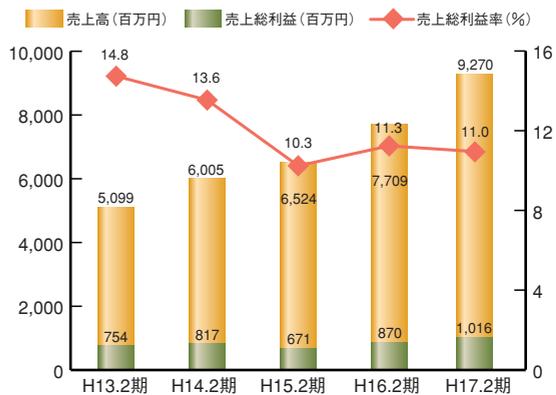
キッズコーナーも設置する
フラワー薬局湖東店



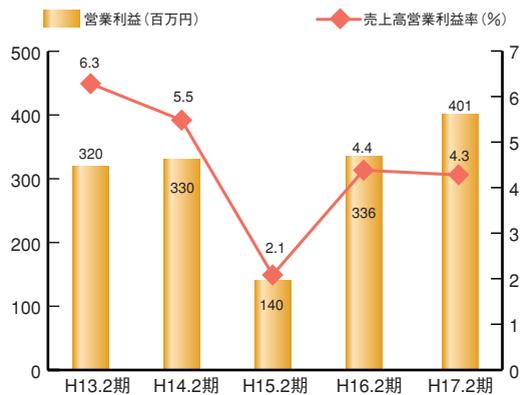
駅ビル内にある
フラワー薬局三宮店

業績ハイライト

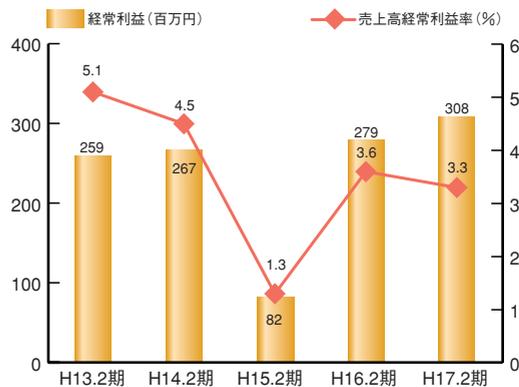
売上高・売上総利益



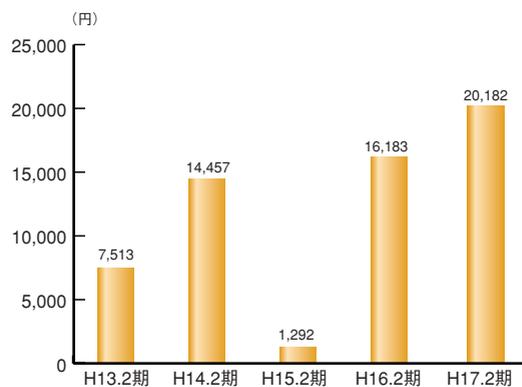
営業利益



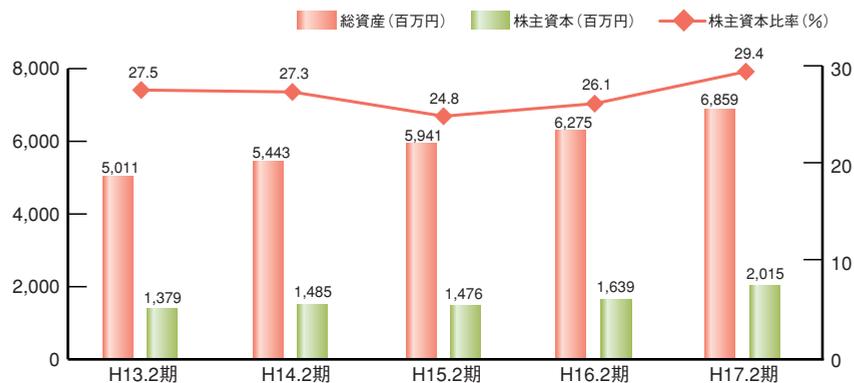
経常利益



1株当たり当期純利益



■ 総資産・株主資本・株主資本比率



回次		第16期	第17期	第18期	第19期	第20期
決算年月		平成13年2月	平成14年2月	平成15年2月	平成16年2月	平成17年2月
売上高	(千円)	5,099,358	6,005,944	6,524,452	7,709,627	9,270,274
営業利益	(千円)	320,126	330,233	140,109	336,799	401,609
経常利益	(千円)	259,034	267,516	82,584	279,699	308,641
当期純利益	(千円)	50,418	115,298	10,304	129,066	166,264
資本金	(千円)	630,750	630,750	630,750	630,750	737,000
発行済株式総数	(株)	7,975	7,975	7,975	7,975	8,975
純資産額	(千円)	1,379,444	1,485,099	1,476,455	1,639,990	2,015,285
総資産額	(千円)	5,011,605	5,443,279	5,941,540	6,275,236	6,859,056
1株当たり純資産額	(円)	172,971.08	186,219.36	185,135.52	205,641.40	224,544.39
1株当たり配当額		旧株 2,000 新株 384	2,000	2,000	3,000	3,600
(うち1株当たり中間配当額)	(円)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益金額	(円)	7,513.93	14,457.42	1,292.05	16,183.82	20,182.62
自己資本比率	(%)	27.5	27.3	24.8	26.1	29.4

財務諸表

※当社は連結財務諸表を作成しておりません。

貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	第20期(当期) 平成17年2月28日現在	第19期(前期) 平成16年2月29日現在
資産の部		
流動資産	2,992	2,452
現金及び預金	1,199	956
売掛金	1,317	1,083
商品	391	345
その他	85	68
貸倒引当金	△0	△0
固定資産	3,866	3,822
有形固定資産	3,265	3,195
建物	1,569	1,510
土地	1,597	1,539
その他	98	144
無形固定資産	28	49
投資その他の資産	572	578
資産合計	6,859	6,275
負債の部		
流動負債	2,346	2,116
買掛金	1,258	948
短期借入金	100	100
1年内償還予定社債	100	200
1年内返済予定長期借入金	524	484
その他	363	384
固定負債	2,496	2,518
社債	500	600
長期借入金	1,849	1,759
その他	147	158
負債合計	4,843	4,635
資本の部		
資本金	737	630
資本剰余金	657	501
利益剰余金	599	456
その他有価証券評価差額金	22	51
資本合計	2,015	1,639
負債・資本合計	6,859	6,275

売上の増加にともない、売掛金・現金及び預金が増加しました。また現金及び預金の増加には株式公開時の調達資金も影響しています。

新規出店により、有形固定資産が増加しています。

売上増加の影響で買掛金が増加しています。

株式上場にともない、資本金・資本剰余金が増加しています。また業績を反映し、利益剰余金も増加しています。

損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第20期(当期) 平成16年3月1日から 平成17年2月28日まで	第19期(前期) 平成15年3月1日から 平成16年2月29日まで
売上高	9,270	7,709
売上原価	8,254	6,839
売上総利益	1,016	870
販売費及び一般管理費	614	533
営業利益	401	336
営業外収益	7	8
営業外費用	100	65
経常利益	308	279
特別利益	53	0
特別損失	25	16
税引前当期純利益	336	263
法人税、住民税及び事業税	186	158
法人税等調整額	△15	△23
当期純利益	166	129
前期繰越利益	171	65
当期末処分利益	337	194

売上高は前年同期比で20.2%増となりましたが、売上原価率が同0.3%増加した影響などで営業利益は同19.2%増となりました。株式公開関連費用などにより経常利益は同10.3%増にとどまりましたが、投資有価証券売却益を計上したことなどで、当期純利益は同28.8%増となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第20期(当期) 平成16年3月1日から 平成17年2月28日まで	第19期(前期) 平成15年3月1日から 平成16年2月29日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	270	71
投資活動によるキャッシュ・フロー	△187	△389
財務活動によるキャッシュ・フロー	159	243
現金及び現金同等物の増減額	242	△74
現金及び現金同等物の期首残高	956	1,031
現金及び現金同等物の期末残高	1,199	956

利益処分(要約)

(単位:百万円)

科目	第20期(当期) 平成17年5月26日	第19期(前期) 平成16年5月26日
当期末処分利益	337	194
配当金	32	23
次期繰越利益	305	171

営業活動によるキャッシュ・フローは、利益の増加・仕入れ債務の増加などにより前年同期比280.4%と大幅に増加しました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出が引き続きありましたが前年同期比で減少している影響などで、同51.8%減でした。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れ・公開にともなう新株発行による収入がありましたが、社債の償還などの影響で同34.6%減となりました。

会社概要 (平成17年2月28日現在)

商号	株式会社メディカル一光
設立	昭和60年4月17日
本社所在地	三重県津市大字藤方501番地の62 059 (226) 1193 (代表)
資本金	7億3,700万円
売上高	92億7,027万円
従業員数	315名 上記従業員のほか、契約社員及びパート社員62名 (1日8時間換算)
事業内容	・調剤薬局事業 ・医薬品卸事業 ・不動産事業

地域別店舗数	合計	58店舗
	北海道	2店舗
	福井県	3店舗
	京都府	7店舗
	大阪府	7店舗
	兵庫県	4店舗
	奈良県	2店舗
	滋賀県	1店舗
	愛知県	2店舗
	三重県	30店舗

役員 (平成17年2月28日現在)

代表取締役社長	南野利久
常務取締役	西井文平
取締役	小黒博樹
取締役	尾家秀樹
取締役	迫間祥浩
取締役	小野和則
取締役	安達佳之
常勤監査役	柴高旦
監査役	早水恵之
監査役	江口博明
監査役	酒谷宜幸



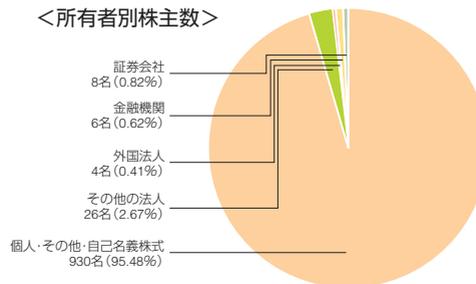
株式の状況 (平成17年2月28日現在)

1. 会社が発行する株式の総数	30,000株
2. 発行済株式の総数	8,975株
3. 株主数	974名

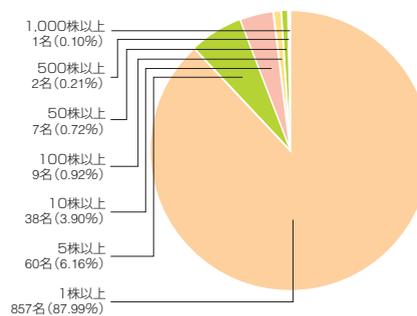
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	議決権比率(%)
イオン株式会社	2,250	25.07
株式会社リオ	971	10.82
南野利久	906	10.10
菊川東	400	4.46
沢井製薬株式会社	334	3.72
メディカルー光従業員持株会	316	3.52
株式会社山陰合同銀行	250	2.79

<所有者別株主数>



<所有数別株主数>



ホームページの紹介

■ 当社ホームページ
<http://www.m-ikkou.co.jp/>



■ 当社IRサイト
<http://www.m-ikkou.co.jp/IRinfo.html>



株主メモ

決 算 期	2月末日
定 時 株 主 総 会	5月
基 準 日	2月末日（その他必要があるときは予め公告いたします）
利益配当金受領株主確定日	2月末日
中間配当金受領株主確定日	8月31日
名 義 書 換 代 理 人	株式会社だいこう証券ビジネス
同 事 務 取 扱 所	〒541-0041 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部 （お問合せ先） 0120-255-100 （各種手続用紙のご請求） 0120-351-465 http://www.daiko-sb.co.jp/
同 取 次 所	株式会社だいこう証券ビジネス 各支社
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞 なお、貸借対照表および損益計算書は、当社のホームページに掲載しております。
証 券 コ ー ド	3353